

読 響  
Yomiuri  
Nippon  
Symphony  
Orchestra

オーケストラ・シリーズ 読売日本交響楽団 特別演奏会



© Orchestra Ensemble Kanazawa

# 田園

ベートーヴェン  
交響曲

円熟味のあるタクトで  
オーケストラを操るカリスマ  
指揮 井上 道義



© Yukio Kojima

小川のせせらぎ、小鳥の囀り、嵐…  
自然の生命力が湧きあがる

パリ管に客演するなど世界で活躍  
数々のコンクールを制覇  
現在、最も注目を集めるホープ

チェロ 宮田 大



管弦楽  
読売日本交響楽団

© 読売

曲目 ドヴォルザーク:チェロ協奏曲、ベートーヴェン:交響曲 第6番「田園」

※都合により曲目、出演者等が一部変更になる場合もございます。あらかじめご了承ください。 ※未就学児のご入場は固くお断りいたします。

平成 30年 6月 2日 (土) 15:00開演

全席指定 S席 6,000円 A席 5,000円

千葉県文化会館・大ホール

※駐車台数に限りがありますので、公共の交通機関をご利用ください。

主催 千葉県文化会館  
(公財)千葉県文化振興財団

後援 読売新聞千葉支局



プレイガイド

千葉県文化会館

043-222-0201

セブンイレブン <http://7ticket.jp/>  
(店頭/インターネット)

千葉県東総文化会館

0479-64-2001

チケットぴあ 0570-02-9999  
(Pコード 106-735)

インターネット予約 <http://www.cbs.or.jp/>  
(画面上でお席をお選びいただけます)

e+(イープラス) <http://eplus.jp/>  
(携帯&PC)



# 自然をこよなく愛したベートーヴェンの傑作〈田園〉

日本を代表するカリスマ指揮者・井上道義が、ベートーヴェンの神髄に迫ります。交響曲第6番「田園」は、ベートーヴェンが残した九つの交響曲のなかでも、親しみやすいメロディや湧き上がる生命感で人気の高い作品です。小川のせせらぎや小鳥のさえずり、雷鳴を伴う嵐など、自然界への温かな眼差しや畏敬の念を感じさせます。円熟味の増した井上は、オーケストラから雄大な音を引き出し、表情豊かに描くことでしょう。

前半は、チェロの代表作とされるドヴォルザークのチェロ協奏曲を演奏します。この作品はボヘミアの民族色が濃厚で、チェロという楽器の持つ表現力が最大限に活かされています。今回、独奏チェロは完璧なテクニックと温もりある音色で聴衆を魅了している名手・宮田大が務めます。今や日本を代表するチェリストとなった宮田が、切れ味鋭いパッセージや朗々と歌われる旋律をどう奏でるのか、期待が高まります。

読売日本交響楽団の千葉県文化会館公演は、約1年3ヶ月ぶりです。前回2017年3月の公演は開催1カ月前にチケット完売し、当日は1790名ものお客様にオーケストラの響きをご堪能いただきました。今回も熱い感動でホールが包み込まれることでしょう。

## 井上 道義(指揮)

Michiyoshi Inoue, Conductor



© Mieko Urisaka

1946年東京生まれ、桐朋学園大学卒業、ニュージーランド国立交響楽団首席客演指揮者、新日本フィルおよび京都市響音楽監督、大阪フィル首席指揮者、オーケストラ・アンサンブル金沢音楽監督を歴任。2007年、ショスタコーヴィチ交響曲全曲演奏プロジェクトを企画立案、音楽・企画の両面で大きな成功を収めた。14年4月、病に倒れるが同年10月に復帰を遂げる。15年、全国共同制作オペラ「フィガロの結婚」(野田秀樹演出)を総監督として指揮し、10都市14公演の巡回公演を大成功へと導いた。17年7月、大阪国際フェスティバルにて「パーンスタイン:ミサ」を自身23年ぶりに総監督(演出兼任)として率い、壮大で唯一無二な舞台を作り上げたこと各誌にて評価を受けた。10年「平成22年京都市文化功労者」、社団法人企業メセナ協議会「音もてなし賞(京都プライトンホテル)」、16年「渡邊暁雄基金特別賞」、「東燃ゼネラル音楽賞」、18年「大阪文化賞」「音楽クリティック・クラブ賞」を受賞。自宅にアヒルを飼っていた。

<http://www.michiyoshi-inoue.com/>

## 宮田 大(チェロ)

Dai Miyata, Cello



© Yukio Kojima

現在最も注目を浴びる若手実力派チェリスト。2005年日本音楽コンクール第1位、09年ロスロポーヴィチ国際チェロコンクールで日本人として初優勝。桐朋学園音楽部門特待生、同学ソリスト・ディプロマコースを首席で卒業、ジュネーヴ音楽院卒業、クロンベルク・アカデミー修了。出光音楽賞、ホテルオークラ音楽賞などを受賞。バリ管弦楽団、ザールブリュッケン・カイザー・スラウテルン・ドイツ放送フィルなどに招かれるほか、室内楽ではクレメール、バシュメットら著名な演奏家とも共演。12年に小澤征爾指揮/水戸室内管にソリストとして出演し、この模様はテレビで放送され、大きな反響を呼んだ。読響とは共演を重ねており、17年2月はサン＝サーンスで、6月にはショスタコーヴィチの協奏曲で完璧な技巧と美しい音色を披露し、喝采を浴びた。

使用楽器は、上野製菓株式会社より貸与された1698年製ストラディヴァリウス「シャモニー(Cholmondeley)」。

<http://daimiyata.com>

## 読売日本交響楽団(管弦楽)

1962年、オーケストラ音楽の振興と普及のために読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビのグループ3社を母体に設立された。アルブレヒトとスクロヴァチェフスキら世界的巨匠が常任指揮者を歴任し、2010年4月からはシルヴァン・カンブルランが常任指揮者を務めている。17年11月には創立55周年&メシアン没後25周年記念事業として、大作「アッジの聖フランチェスコ」(演奏会形式)を全曲日本初演し、新聞や雑誌で絶賛され、世界レベルの実力を兼ね備えた勢いのあるオーケストラとして注目を集めている。現在、東京・赤坂のサントリーホールでの定期演奏会を軸に充実した内容の演奏会を多数開催している。

<http://yomikyoo.or.jp/>